



# 9月9日は 「救急の日」です。

「救急の日」は、救急業務や救急医療に対して、市民の皆さんの理解と認識を深めていただくとともに、救急医療関係者の意識の高揚を図ることを目的に、昭和57年に定められました。

今回は、この日をきっかけに、応急手当てや救急業務、救急医療に関心を持っていただくため、救急について特集をしました。

助かるはずの命があります。ぜひ、皆さんの力で助けましょう。

9月9日は「救急の日」です。

# 救命のリレー 早い通報



## 119番通報のひびく

病気の人がけがをした人を発見した！

119番通報をかけることは、皆さんの一生のうちにも何度も経験することではないと思います。しかし、いつその場面に直面するかわかりません。

正しく通報できたかどうかで、病气やけがをした人のその後の人生に重大な影響を及ぼす可能性があるかもしれません。

病气やけがをしている人を発見し「様子がおかしい」「病院へ行った方が良い」と判断した場合は、いち早く119番通報をしてください。



いざという時に備え、正しい通報の仕方を身に付けましょう。

### 固定電話からの通報

電話がつながったら、落ち着いてはつきりお答えください。通信員は次のことを尋ねます。少しでも早く出動できるようにご協力をお願いします。

◎火事ですか？

救急ですか？

◎今お使いの

電話番号は？

◎場所はどこですか？

◎どなたが

どうしましたか？

### 携帯電話からの通報

携帯電話は固定電話と比べ、次のような注意点ががあります。▼土岐市以外の消防本部につながる場合があります

携帯電話の場合、119番通報が必ず近くの消防署につながるには限りません。もし、他市の消防署につながったら



「土岐市内」から通報していることを伝えれば、市消防本部へ転送してもらえます。

▼自分がどこにいるのかが分からないことがある

現在地が分からなければ救急隊は現場に向かうことができません。地元の方や近くのお店などで住所を聞き、場所の確認をしてください。

※固定電話からの通報は、すべてではありませんが、電話番号の登録住所が地図上に表示されるシステムにより、現場を素早く特定できます。やむを得ない場合を除き、できるだけお近くの固定電話からの119番通報にご協力をお願いします。

## 119番豆知識



皆さんご存じの通り、119番といえば火災・救急などの緊急通報ダイヤル番号ですね。実はこの「119番」、昭和2年までは「112番」でした。

当時は黒電話(ダイヤル電話)が主流であったため、一刻を争う緊急のためにダイヤル時間の短い番号として「112番」が指定されたのですが、当時はダイヤルに不慣れなためか、誤った接続が多かったそうです。そこで昭和2年に現在の「119番」に見直されました。

また最後に9を回すことでかけ間違いを防ぐとともに、落ち着いて通報することができるともいわれています。



通信指令室で通報を受ける通信員



9月9日は「救急の日」です。

# 救命のリレー 早い応急手当



## AEDって何？

AEDって何？

AEDは小型の器械で、裸の胸に電極パッドを張ることで自動的に心臓の状態を判断し、心室細動（※）という不整脈を起こしていれば、強い電流を一瞬流して心臓に電気ショックを与えることで、心臓の状態を正常に戻す機能を持っています。

## なぜAEDが必要な？

突然の心停止では心室細動となっていることが多く、最も効果的な治療は電気ショックです。しかし、時間が経過することで救命の成功率は減少してしまいます。

救急車にもAEDは積載されていますが、救急車の出勤から現場に到着するまで約7分間かかります。救急隊が到着した時には患者さんの心臓が完全に止まってしまった状態になっている事が多く、この場合にAEDは使用できません。

そのため、救急隊が到着す



市役所玄関ホールに設置されたAED

る前に、その場に居合わせた人がAEDを使用することが、救命のリレーで重要なことなのです。

## AEDは誰でも使えるの？

AEDは電源を入れると音声指示が流れて使用手順を教えてくれるため、使用方法は簡単です。また、AEDだけではなく、心肺蘇生法と併用して使用することで救命の確率が上がるため、救急講習会の受講をお勧めします。

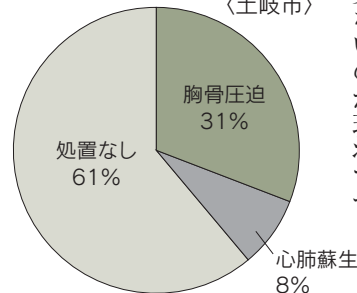
※心室細動＝心臓が細かくブルブル震えて血液を全身に送ることができない状態

## 救急講習会について

救急救命士法の制定により救急隊員が行う応急処置内容が拡大し、全国的に救命率は徐々に上がっていますが、救急現場では、その場に居合わせた方の救命処置（心肺蘇生法）が最も重要です。

しかし、まだまだ実施件数が少ないのが現状です。

平成20年救命処置実施状況（土岐市）



消防署では、毎年約90回の救急講習を開催し、平成17年から去年までの4年間で、約9300人の方が参加しました。これは、市の人口の約15%に当たります。まだ講習会に参加したことのない方は、ぜひ参加しましょう。

詳しくは、北消防署（☎0119）または南消防署（☎0119）へどうぞ。

## レスキューハート・土岐に参加しませんか？

レスキューハート・土岐は、応急手当での必要性と心肺蘇生法を広めるためのボランティア団体です。

今年で結成10年を迎え、現在の会員数は36人です。消防署で開催される救急講習会での実技指導や、10月にセラトピア土岐で開催される「健康を守る市民の集い」などに参加して、応急手当での必要性を訴えとともに心肺蘇生法の普及活動に取り組んでいます。興味のある方は、ぜひレスキューハート・土岐にご参加ください。

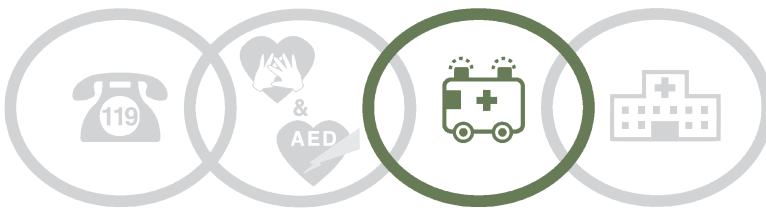
詳しくは、レスキューハート・土岐事務局（北消防署救急係 ☎0123）へどうぞ。



昨年の「健康を守る市民の集い」での活動の様子

9月9日は「救急の日」です。

# 救命のリレー 早い救急処置



患者さんの心臓や呼吸が止まっていた場合、救急隊もAEDを使用し、心臓マッサージや人工呼吸といった心肺蘇生法を実施しながら病院まで搬送します。

救急隊の中には「救急救命

一刻を争って  
救命処置のために



[上] 気管挿管

口の中に専用のチューブを入れて、より空気が通るようにします

[左上] 静脈路確保(点滴)

薬剤がすぐ投与できるように点滴をします

[左] 薬剤投与

点滴と同時に、心臓の動きを助ける薬を使います

士」という資格を持った隊員がいます。救急救命士は、心臓や呼吸が止まってしまった患者さんに対して心肺蘇生法はもろろん、病院の医師と直接連絡を取って高度救命処置を施すことができます。救急隊は、左の写真のような器具を用いて救命処置を施すことがあります。

9月9日は「救急の日」です。

# 救命のリレー 早い救命医療



市立総合病院脳神経外科部長  
兼救急診療科部長  
熊谷守雄先生

救急隊が患者さんを病院に搬送するとき、医師が現場の救急隊に高度救命処置の許可や指示を出したり、また事前に救急隊から病気やけがの情報を知らせることで、病院の救急処置室に搬送された患者さんは、医師、看護師などのスタッフにより適切な医療を速やかに受けることができます。

医療スタッフとの連携

病気の人やけがをした人を発見したその時「救命のリレー」がスタートします。そのバトン医療機関へつなぐことで人の命を救うことができます。皆さんがバトンをつなぐ日が来るかも知れません。

9月9日の「救急の日」をきっかけに「救命のリレー」を意識していただき、救急救命活動にご協力をお願いします。

詳しくは、消防本部 (☎530123) へどうぞ。